

小原信講師が優秀演題賞を受賞

第21回 日本抗加齢医学会総会

小原信講師(医学部内科学 講座糖尿病・代謝・内分泌 内科学部門)が、第21回日本抗加齢医学会総会(6月25日〜27日・国立京都国際会館・WEBライブ配信)で優秀演題賞を受賞した。

同学会は、高齢社会のなか、人々の健康寿命を延伸させることを目的に設立された、異分野の専門家や多職種が総勢約9,000名からなる我が国でも最大規模の医学会の一つである。

小原講師は演題名「2型糖尿病患者におけるオマリグリブチンによる酸化ストレスおよび血糖変動に対する

影響に関する探索的研究」の発表が高く評価され、同賞に選定された。

【小原信講師のコメント】
このたび、第21回抗加齢医学会総会優秀演題賞を受賞し、大変光栄に存じます。日本において、2016年時点で糖尿病が強く疑われる人は1,000万人と食の欧米化及び高齢化社会によつて年々患者数が増加しております。

糖尿病は血管障害をきたす疾患であり、糖尿病の治療の目標は、糖尿病に関連した合併症の発症や進行を阻止し、健康な人と変わら

ない生活を送ることです。そのため多くの糖尿病治療薬が存在しますが、日本で現在多く使用されているのがDPP-4阻害薬になり、1日1回または2回の内服するタイプ及び週1回内服する製剤が存在します。本研究では、血管障害のサロゲートマーカーとして酸化ストレスマーカーのd-ROMs及び24時間連続血糖測定を利用した血糖変動に関して、週1回製剤であるDPP-4阻害薬であるオマリグリブチンと通



石川紘司講師が学術奨励賞を受賞

第41回 日本骨形態計測学会

石川紘司講師(医学部整形外科 骨形態計測学会)が、第41回日本骨形態計測学会(7月1日〜3日・御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター)開催で学術奨励賞を受賞した。

同学会は骨の研究を主に形態学的方法およびそれに関連する方法で推進し、その進歩発展に寄与することを目的に1979年に設立された。

石川講師は演題名「抗RA NKL抗体治療の中断による骨代謝破綻の機序」の発表が高く評価され、同賞に選定された。

【石川紘司講師のコメント】
受賞に際し、関係各位皆様に心より感謝申し上げます。「骨」を多角的に評価・

検討する本学会には、医学部・歯学部・薬学部以外にも、工学部や理学部など、多岐にわたる専門領域の研究者が集うのが特徴です。その中で本研究をご評価いただいたこと、大変光栄に思います。

整形外科学講座では、超高齢社会における健康寿命の延伸に貢献すべく、「骨脆弱性の克服」をテーマに掲げ、稲垣克記教授を中心に、基礎・臨床の両輪で研究を重ねてまいりました。本研究で研究対象とした抗RANKL抗体(骨粗鬆症治療薬)は素晴らしい臨床成績が報告されています。しかし、薬剤を中断した際のRebound現象(多発椎体骨折)が近



常の1日1回または2回内服のDPP-4阻害薬を比較検討し、週1回でも通常の対応と同等の効果がある事を報告しました。

本研究にご参加頂きました患者さん、普段から糖尿病診療と研究を支えて下さる山岸昌一教授をはじめとする全医局員、医療スタッフに心より御礼申し上げます。今後より一層、糖尿病患者さんの力になるべく臨床及び研究に邁進する所存です。

奥茂敬恭助教が優秀賞を受賞

第33回 日本疼痛漢方研究会学術集会

奥茂敬恭助教(医学部生理学 講座生体制御学部門)が第33回日本疼痛漢方研究会学術集会(7月3日・東京コンファレンスセンター・品川)およびWEBのハイブリット開催で優秀賞を受賞した。

日本疼痛漢方研究会は1988年8月に開催された「第1回痛みと漢方シンポジウム」に端を発し、痛みに関する漢方薬を用いた研究を通して、漢方薬治療の普及拡大を図り、医学と医療の発展に寄与することを目的としている。

奥茂助教は演題名「変形性膝関節症に対する防己黄耆湯の作用機序」モデルラットを用いた基礎研究」の発表が高く評価され、同賞に選定された。

【奥茂敬恭助教のコメント】
昨今、運動器の変性疾患

は慢性疼痛疾患として分類されるようになり、臨床現場ではその治療に難渋する例が少なくありません。これまで膝関節外科医として患者さんの診療に携わってききましたが、「膝関節の外傷歴がある人は、その時に適切な治療を受けても、変形性膝関節症を発症し、手術療法が必要までに進行するリスクが高い」という事実を直視し、何とかしてその進行を抑制する治療法を提供したいという思いから、本研究をスタート致しました。

当部門の特徴の一つである東洋医学研究からヒントを得て、多くの方々のご理解・サポートにより、これまでの成果を報告する機会を頂けました。東洋医学の歴史は長く、それは学問として実学そのものであり、外傷後変形性膝関節症に対する疾患修飾薬として、漢方薬の可能性・有用性を拓く結果を得ることができて、私自身も驚いております。

今後も慎重に作用機序の解明に努め、将来的に多くの患者さんに還元されることを願っています。



平井邦朗助教らの研究成果が呼吸器系トップジャーナルに掲載

平井邦朗助教(医学部内科学 講座呼吸器アレルギー内科学部門)らのResearch Letter(研究成果)が、呼吸器系トップジャーナルの一つである「European respiratory Journal」(2021年Impact Factor 16.6点)に掲載された。

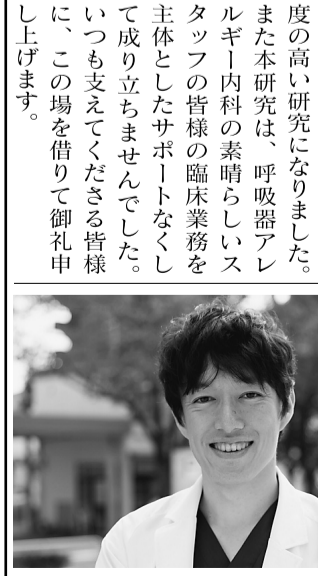
平井助教を中心とする昭和大学病院呼吸器・アレルギー内科の研究チームは、サージカルマスクのCOPD患者に与える影響を調査し、その着眼点と全世界にわたる臨床学的な需要の高さが評価され、このたびの掲載となった。

【平井邦朗助教のコメント】
本研究において、COPD患者さんがサージカルマスクを装着して歩行した場合、呼吸困難感が増強するものの、労作時の酸素化・脈拍数並びに運動耐容能に影響を与えないことを示しました。その結果、サージカルマスク着用下における6分間歩行試験の妥当性も同時に示され、実臨床における有用性を評価いただきました。

「European Respiratory Journal」は世界中の呼吸器科の医師が参考にする学術誌なので、昭和大学発の研究が多くの医療従事者や患者さんに貢献でき、大変光栄です。

本研究は、患者さんや相良博典教授をはじめとした呼吸器アレルギー内科の医師の先生方の協力は勿論のこと、研究計画の段階から統計学的手法やサンプル

サイズ計算を含め多大なサポートを頂いたSURACの先生方のお陰で、より精度の高い研究になりました。また本研究は、呼吸器アレルギー内科の素晴らしいスタッフの皆様の臨床業務を主体としたサポートなくして成り立ちませんでした。いつも支えてくださる皆様に、この場を借りて御礼申し上げます。



保健師助産師看護師 実習指導者講習会 開講式

8月23日、横浜キャンパスにて神奈川県保健師助産師看護師実習指導者講習会・昭和大学保健師助産師看護実習指導者講習会の合同開講式を執り行った。本講習会は効果的で質の高い実習指導を行える指導者となることが期待されていること、開講の挨拶を述べた。

続いて、田中晶子保健医療学部看護学科主任の挨拶、増田千鶴子統括看護部長から来賓挨拶の後、受講生一人ひとりの名前が紹介され、閉式となった。

受講生は、8月から12月まで週2回、講義・演習・実習等を行っていく。



挨拶：下司映一 保健医療学部長

保健師助産師看護師 実習指導者講習会 開講式

- カタログ景品手配
- 自動車保険取扱
- ポロシャツ販売
- 富士吉田の天然水販売
- イベント運営補助
- ふるさと納税
- 公的研究費請求手続き
- 昭友商事株式会社 3784-8280
- 酒類販売
- 国内海外出張手配